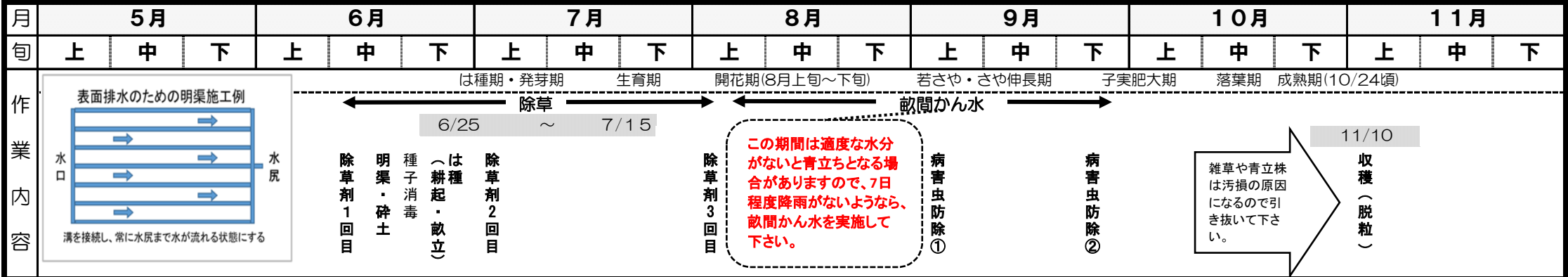


令和8年産 大豆『ことゆたかA1号（狭畦密播）』栽培こよみ

目標収量 240kg/10a JALレーク滋賀
令和8年4月作成

【最重要】播種時期（6月25日～7月15日）を守って作業をして下さい。

- 土壌の過湿は発芽・生育不良を起こすので排水対策を徹底する。
- ほ場が乾かない場合は播種時期を遅らせ播種後1ヶ月までに追肥を施用。
- 大豆の出芽や除草剤の効果に影響するため播種前の耕起・砕土は丁寧に実施する。
- 雑草対策を確実に。 (3回の除草剤散布: 播種前、播種後、生育期)



土づくり

大豆は有機物と保肥力のある土を好むので堆肥が効果的です。

肥料名	施用量	成分(%)
新ふりかけ堆肥eco	60kg~100kg/10a	N1.9 - P2.1 - K1.0 他

土壌pHは6.0~6.5が適正なので酸度矯正を実施して下さい。

肥料名	施用量	成分(%)
粒状苦土石灰	100kg/10a	アルカリ 53 - 可溶性苦土 15

基肥

基肥は初期生育を確保するため、窒素成分で2kg程度施用して下さい。

肥料名	施用量	成分(%)
化成肥料488	15kg/10a	N14.0 - P8.0 - K8.0

種子消毒

薬剤塗沫による種子消毒で生育初期の病害虫対策を行って下さい。

農薬名	希釈倍数	使用時期	適用病害虫
クルーザーMAXX	乾燥種子1kg 当り8ml	は種前	田立枯病、茶斑病、茎疫病、

は種

は種は、ほ場が乾いてから行って下さい。

は種時期	6/25~7/15(7/5基準)	は種密度	基本は、条間30cm×株間14cmの2粒播きです。
は種量	8~10kg/10a	は種直後	除草剤を散布します。
は種深度	3~4cm (乾いた状態で浅く)		

狭畦密播（注意点）

- 中耕培土による雑草対策ができないので、除草剤の効果をも高めるためにも砕土を丁寧に行ってください。

雑草防除

防除区分	薬剤名	使用方法	使用量(10a)
1回目 耕起前または播種前まで	ラウンドアップマックスロード (一年生雑草)	雑草茎葉散布	200~500ml / 水50~100L
2回目 播種後出芽前	ラクサー乳剤 (一年生雑草) ラクサー粒剤 (一年生雑草)	全面土壤散布	400~800ml / 水100L 4~8kg
3回目 大豆2葉期~開花期	大豆バサグラン液剤 (一年生雑草イネ科除く)	雑草茎葉散布または全面散布 (収穫45日前まで)	100~150ml / 水100L
雑草生育期 イネ科雑草3~10葉期	ポルトフロアブル (一年生イネ科雑草)	雑草茎葉散布または全面散布 (収穫30日前まで)	200~300ml / 水100L 少量散布可

※雑草に応じた剤を使用してください
草種によって除草剤の効果異なりますので、雑草の発生状況に応じた除草剤を選定してください。

薬剤名	有効な雑草
大豆バサグラン液剤	アメリカセンダングサ、タデ類
ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草

病害虫防除（防除の際は下記の農業から選んで使用して下さい。）

必須防除

防除区分	薬剤名	適用病害虫名	使用方法	希釈倍率	使用時期
1回目 若実期	ファンタジスタフロアブル	炭疽病等	散布	1,000~2,000倍	収穫7日前まで
			無人航空機散布	16倍	
2回目 子実肥大期	スタークル液剤0	カメムシ類 ダイズサヤタマハエ フタスジヒメハムシ等	散布	1,000倍	収穫7日前まで
			無人航空機散布	8倍	
3回目 肥大型	プロフレアSC	ハスモンヨトウ フタスジヒメハムシ等	散布	2,000~4,000倍	収穫前日まで
			無人航空機散布	16~32倍	

※病害虫の発生状況に応じて薬剤の変更が必要です。

追加防除

防除区分	薬剤名	適用病害虫	使用方法	希釈倍率	使用時期
ハスモンヨトウ (多発時)	フレオフロアブル	ハスモンヨトウ	散布	1,000~2,000倍	収穫7日前まで
			無人航空機散布	8~16倍	
カメムシ類 (多発時)	キラップフロアブル	カメムシ類	散布	2,000倍	収穫7日前まで
			無人航空機散布	16倍	

- 記載の農業につきましては、令和8年3月時点での登録内容です。
- 農薬の使用に当たっては、必ず容器ラベルを確認して下さい。
- 無登録・使用禁止農薬の使用、及び適用外使用は法律違反となります。

品質向上と増収のポイント